資料５

構成団体における食育の取組概要

団　体　名	取　組　の　概　要
長野県歯科医師会	【令和２年度の取組】 ○令和２年11月８日「80歳になっても20本以上自分の歯を保とうーよい歯で　よく噛み　よいからだー」をテーマに長野県・長野県教育委員会との共催により、「歯っぴーながの8020推進県民大会」を開催。 県民の皆様が生涯を通じて自らの健康を維持増進し生活していただくに当たり「食べる」ということを生命の根源、生きる力と捉え、歯と口腔衛生の大切さを再確認し共有する貴重な機会となった。今年度は新型コロナ感染防止対策の観点から会場においては参加者人数を限定して開催し、大会の模様を本会のYouTubeチャンネルにおいてリアル配信を行い、さらに期間限定で同様に本会のYouTubeチャンネルによるオンデマンド配信も行いより多くの方々にご視聴していただくよう配慮した。当日の結果及びその後の３日間で１０００回以上の視聴をいただいた。 8020推進支援研修会として柔道家で長野県民健口大使に任命した松山三四六氏に「生きることは、噛みしめること」と題して講演を頂いた。また本会の伊藤会長と松山三四六氏に加え料理研究家の山本麗子氏を交えお口の健康座談会を開催し、「健康的な食事とは？」をテーマにディスカッションをしていただいた。山本麗子氏からは様々なライフステージにおいて必要な栄養を考慮した具体的な料理のレシピを提供していただき、会場からも多くの質問が出るなど反響が多い大会であった。 ○こども8020推進員育成事業 健康長寿を目指すため子どもの頃から歯科保健の正しい知識と生活習慣を身に着けいつまでも自分の歯で噛み、栄養をしっかり意識し病気になりにくい体を手に入れるため県内の小学校（4,5年生対象）から参加校を募集する。（令和２年度　実施25校内予定中12校参加） ○「オーラルフレイルに関するシンポジウム」を開催 　当初は前述の「歯っぴーながの8020推進県民大会」と併催でシンポジウムを開催する予定であったが新型コロナ感染防止を考慮し別日に収録し、やはり本会のYouTubeチャンネルによる限定オンデマンド配信を行い、３００人以上の視聴をいただいた。今回のシンポジウムでは関連６団体（長野県薬剤師会、長野県看護協会、長野県栄養士会、長野県介護支援専門員協会、長野県食生活改善推進協議会、長野県歯科保健推進センター）をお招きしそれぞれのお立場から「食」というものに非常に関連が深いフレイル、オーラルフレイルの対策に関する貴重なご意見をいただく機会となった。 【令和３年度の取組】 ○歯っぴーながの8020推進県民大会の開催 例年以上に広く県民に周知し歯科保健関係者だけでなく広く一般県民の参加を集う。引きつづき口腔と食の重要性をアピールしたいと考えている。 ○こども8020推進員育成事業の継続

団　体　名	取　組　の　概　要
	○様々な職種に対して引き続き口腔機能管理等の重要性をご理解いただき、お口の健康維持増進が健康寿命の延伸に寄与することを啓発していきたいと考えている
長野県栄養士会	信州すこやかっ子「食育」プログラムを基に、日本型食生活の大切さを学び、生涯健康でいきいきと過ごすための食生活と豊かな心を育むため、ライフステージを通した食育等を推進している。 【令和２年度の取組】 ○　「栄養の日」キャンペーン実施 平成29年に８月４日が「栄養の日」に制定されたことから、健康長寿を支えてきた長野県の食文化の良さを大切にしながら改善を加え、健康長寿の延伸をねらいとして、キャンペーンを実施した。 令和２年８月～９月　県下４地区（大型スーパー等の商業施設） 対象：一般県民 内容：・1日に摂取したい野菜の量350ｇの展示 ・免疫力を高める食品と料理の展示 ・適塩、フレイル予防等のパネル展示 ・地域でとれる野菜、季節の野菜を用いた料理レシピの紹介 ・栄養相談 ○　「食からパワーアップ！高校生のための食育出前講座」開催 食についての指導が欠けがちな高校生を対象に県内３校（令和２年12月末現在）で、健康づくり、食事の重要性、健康に配慮し食べ方のポイントなどについての講話を実施した。 ○　上田保健福祉事務所委託事業「世代別健康に配慮したメニュー普及業務」 世代別（「子育て世代」「若い世代」「働きざかり世代」「シニア世代」「郷土食・行事食」）に健康に配慮した料理（メニュー）の普及啓発 ○　「信濃の国食事バランスガイド」の普及 各種栄養相談や栄養講話の際に、健康づくりのための食べ方を伝えるため、長野県の郷土料理や料理の食塩量を盛り込んだ「信濃の国食事バランスガイド」をツールとして用い、普及 ○　「恋野菜れしぴ」の販売（平成24年度作成） 若い世代を対象に野菜を楽しく料理して欲しいと願って作成。現在も販売中。 ○　食環境整備の一環として、長野県長寿食堂への献立提供 栄養士会監修の「信州めぐみ御膳」（信州食育発信「３つの星レストラン」の基準を満たす献立）を提供 ○　お財布にやさしいお手軽レシピ集作成（高齢者編） ○　フレイル対策事業の一環として、「食べる楽しみをささえる会」に動画を提供 ○　県民に対して、管理栄養士・栄養士に相談等を行いやすくするための対応として、認定栄養ケアステーション開設の支援 ○　糖尿病公開講座（県下４地区）」開催 対象者：糖尿病患者及び家族、一般県民 内　容：医師、栄養士、健康運動指導士等による講話や相談等 【令和３年度の取組】 ○　「栄養の日」キャンペーン

団　体　名	取　組　の　概　要
	○　食からパワーアップ！高校生のための食育出前講座 ○　糖尿病公開講座 ○　フレイル予防事業、低栄養対策のための事業 ○　お財布にやさしいお手軽レシピ集作成（高齢者編）
長野県調理師会	【令和２年度の取組】 ○　例年実施している「しなの食大学」は、新型コロナ感染症拡大防止のため１年間中止といたしました。 ○　長野県農政部農産物マーケティング室の委託を受け、信州の恵みでおもてなし「信州の粉もの」冊子を作成し、講習会等を通じて調理師会員をはじめ、調理師専門学校生や調理を学ぶ高校生等若い世代に、「信州の粉食」についてお伝えしております。 　信州の暮らしに根ざした伝統的な食文化の一つ「粉食」を、小麦。そば粉の新品種の開発、米粉の成分技術の進歩等により新しく加わったパン、麺類、スイーツ等と併せて、地産地消を推進し心と体にやさしいスローフードとして次世代に引き継いでいきたいと思います。 ○　農林水産省「和食」と地域食文化継承推進委託事業長野県地域検討委員 長野県の郷土料理を選定し、保護、継承していく方策について検討してきました。その中で「鯉こく」「根曲がり竹と鯖缶の味噌汁」「こねつけ」を調理し、動画を撮影しましたが、若い世代の中には食べた経験がない方が多く、実際に食べて頂くと、素朴な味わいのおいしさを感じてもらえる、という印象を受けました。まず、若い世代に長野県の郷土食を知ってもらい、味わっていただくことが大切だと思います。 季節感を大切にし、地元の食材を上手に活用した郷土料理の持つ「素朴さ」が改めて見直されています。この活動を活かし長野県下から全国に広まっていってほしいと思います。 ○　「味覚の１週間」 11 月 24 日（火）に安曇野市立堀金小学校５年生 86 名を対象に実施しました。 今年は、松本広域支部会員 14 名が講師となり、コロナ対策を十分に取ったうえで、五感で味わう、ダシの旨味等について学習し、味噌汁を作って試食をしました。 【令和３年度の取組】 ○　減塩について 長野県では、減塩（適塩）について様々な取り組みが行われていますが、お客様に料理を提供する調理師が、減塩について意識し自身の食生活の中で実行することも大切だと思います。そこで、例えば毎月１日を「減塩食デー」とし　調理師会員が“おいしい減塩食を作り食する日”とした取組みを実施することを提案していきたいと思います。そうした中で調理師の減塩に対する意識が高まり、県民全体に広がるきっかけになると思います。
長野県食品衛生協会	【令和２年度の取組】 1.　食品衛生責任者養成講習会 令和２年６月～令和３年３月開催　23 会場　1,800 名受講

団　体　名	取　組　の　概　要
	【令和３年度の取組】 1.　食品衛生法に基づく小規模事業者に対する「ＨＡＣＣＰを取り入れた衛生管理」の具体的な実施方法の周知 2.　食の安心・安全五つ星事業とＨＡＣＣＰを組み合わせた事業の推進 3.　食品検査の実施による HACCP 導入の支援 4.　食品衛生管理者養成及び責任者実務講習会の実施 5.　食品衛生推進員研修会の実施 6.　食品衛生に関するリスクコミュニケーションの推進 7.　手洗いマイスター認定講習会 8.　手洗いマイスターによる県下各地で手洗い講習会の実施 9.　その他、各種食品衛生講習会等の実施
全日本司厨士協会 長野県本部	【令和２年度の取組】 令和２年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの事業が中止になり、予定していた「味覚の授業」も学校の都合でできませんでした。 また、長野県調理師会及び長野市支部が予定していた事業も中止となり、残念な１年でありました。 【令和３年度の取組】 令和３年度の取組としましては、２年度できなかった「味覚の授業」を行いたいと思っています。 また、来年度の長野県調理師会及び長野市支部の事業にもできる限り協力をしていきたいと思います。
長野県小学校長会	【令和２年度の取組】 ・給食センターだよりを給食委員が学級で読み上げ、その日の献立内容や栄養士の思いを知り、クイズで栄養のことを学ぶ。 ・「おいしい信州ふーど」のチラシを配布する際、教師が内容や食べ物の大切さについて話をする。 ・家庭科で食について授業を行い、これまでより気をつけたいことを書き出し、確認している。 （子どもの考え） ▹　いろどりや5大栄養素を意識するようになった。 ▹　朝ご飯を食べることの大切さを学び、毎朝ご飯をきちんと食べるようになった。 ▹　栄養のバランスや色合いに気をつけて作るようになった。 【令和３年度】 新型コロナウイルス感染予防の取組として、食生活による体調管理について全校で考える。

団　体　名	取　組　の　概　要
長野県 高等学校長会	【令和２年度の取組】新型コロナウイルス対応のため前年度の取組を含む 〇各高校の取組 （家庭科）家族の食生活を健康で安全に営むこと、食生活の文化に関心をもつこと、必要な技術を習得して充実した食生活を営むこと、健康と栄養とのかかわり、健康の保持増進に配慮した食生活の工夫などに取り組んでいる。 （保健体育科）食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践に関する適切な意志決定や行動選択ができるように取り組んでいる。 （養護教諭）生徒の健康が食生活に大きく関係していることから、「保健だより」なども発行して「健康的な生活習慣」の普及に取り組んでいる。 〇上田千曲高校の取組 （食物栄養科）食と健康に関する専門的な知識と技術の習得を目指し、様々な学習機会を通じて地域の食材を活用した商品開発、メニュー開発に取り組んでいる。 例）千曲川の川魚料理、味噌造り、郷土料理（きのこ、蕎麦、おやき等）、長野県朝食甲子園参加、高校生食堂の運営 「けんこう未来食堂」：健康未来に向けた食育活動…本年度は「発酵食品」と「ＡＣＥプロジェクト」 「子ども食堂」への定期的参加 目標 ①未来に残したい「食」を考える ②創造力、行動力で郷土を愛する心を育む ③食材や伝統の継承、発展に努める （定時制）長野県食生活改善推進協議会上小支部と連携して調理実習を行い、食生活の改善による生活習慣病予防に取り組んでいる。 【令和３年度の取組】 例年の取組を継続し、さらに充実・発展させていく。
長野県保育連盟	【令和２年度の取組】 １　調査研究事業 給食委員会（委員 12 名）において、保育現場の実情を把握するとともに、子どもたちや保護者を含めた食育活動ができるよう調査・研究を行い、その成果を取りまとめて会員の保育園等に配布する。 今年度は、「アレルギー対応ガイドライン改訂のポイント・対応レシピ集」の作成に取り組んでいる。 ２　研修事業 毎年、長野県保育研究大会を２日間の日程で開催し、２分科会が食育関係をテーマとしているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止した。 【令和３年度の取組】 １　調査研究事業 給食委員会による調査・研究を予定している。テーマ、内容は、新メンバーにより決定する。 ２　研修事業 （１）長野県保育研究大会の２分科会を食育関係をテーマとして開催する。

団　体　名	取　組　の　概　要
	（2）関東ブロック保育研究大会（長野大会）の１分科会を、食育関係をテーマとして開催する。
長野県私立幼稚園・認定こども園協会	【令和２年度の取組】 新型コロナウイルス感染拡大の中で、幼稚園・認定こども園もそれぞれの地域その時々の状況に合わせて徹底的な対策を行ったり、保護者や行政と議論したり登園自粛を余儀なくされたりしました。その中で食については、家族で食べる時間が多くなり、不便な生活ではあるが、一家だんらんの時間がとれた喜びと、改めて今までの個食の反省も聞かれた。 家庭の様子を聞き家庭状況を確認すると、お菓子などし好品を制限なく食べてしまい太ったとか生活リズムが大幅に崩れている様子がうかがえた。 6月に予定していた清川輝基先生の「子どもとメディア」については中止になった。 【令和３年度の取組】 コロナ禍の中でオンラインによるZoom研修が多くなり、今年度はメディア信州代表の松島恒志先生（オンライン）による「すてきな子どもたちを育てるために私たちができること」～「メディア機器に頼り過ぎない子育てを」～の研修を実施する予定。 数年前から私立幼稚園・認定こども園が取り組んで来た「食とメディア」の関係をZoomにより一人でも多くの保育者が学ぶ機会を取りたいと考えている。 その中で「食卓は心も育つ」乳児期からの食べることの大切さを改めて見直していきたい。
長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会	【令和２年度の取組】 〇小中学校の食に関する指導の全体計画による食育の取組 １　教科等の時間における食に関する指導 体育科（保健体育科）、家庭科（技術・家庭科）、特別活動、道徳等において食育の視点を位置付けて、栄養教諭と担任等のテームティ―チングにより実施。 ２　給食の時間における食に関する指導 教科に関連する内容や郷土食、行事食、地場産物等を毎日の献立に意図的に取り入れ教科の学びと食の学びをつなげる。食事のマナー等の給食活動の指導。 ３　個別的な相談指導 食物アレルギー対応による市町村及び学校の体制づくりと管理や、偏食・肥満・痩身・スポーツ栄養等の健康課題への取組。 ４　保護者・地域との連携 学校保健委員会等において、児童・生徒の食生活等に関する実態の周知及び協議や、市町村の食育推進計画及び信州ACEプロジェクトの目標実現に向けた取組、家庭や地域への啓発。 地域の食育ボランティア（食改、農村マイスター等）と連携した郷土食・行事食の伝承活動。 ５　コロナ禍における食育 学校休業中に家庭向けの食育や情報の提供。信州ブランド食材を活用した食育授業等の実施。 ６その他 食育コーナー掲示物、全校集会等の活用。

団　体　名	取　組　の　概　要
	○当部会での取組 １　食に関する実態調査の実態（令和元年実施）から、長野県の児童生徒の食の課題に対し、すべての学校で実施できる食育授業の指導案や指導資料の作成、保護者向けリーフレットの作成及び啓発の実施。 ２　新型コロナウイルス感染症拡大防止の為の給食時における対応の掲示資料作成、配信。また、食に関する指導の全体計画や教科と関連した献立計画ための資料を作成、配信。 【令和３年度の取組】 小中９年間の発達段階を見据え、各校で計画的な食育を実施するために、食に関する指導の全体計画を充実させる。 小学校で学んだ知識を行動につなげるために教科等と連携した中学校の食育を更に充実させる。
長野県PTA連合会	**【令和２年度の取組】** 長野県ＰＴＡ連合会では、毎年ＰＴＡ活動の研究委嘱事業を行っています。 その研究のひとつとして、上田市立長小学校ＰＴＡでは、「わんぱく交流会を通してＰＴＡと地域ができること　～食の大切さ、命を頂く、私たちの生きる真田の旬をみんなで味わおう～」をテーマに食に関する活動を２年にわたり実践していただきました。 『食は体を作り、言葉は心をつくる』の考え方のもと、毎日食べている食材には「水と塩以外すべてに命があること」「子供たちの周りにはたくさんの素晴らしい食材があること」「地域の大人たちと一緒に過ごす時間の中で素晴らしい大人たちがたくさんいるということ」を子ども達に実感させてあげたいとの思いから研究テーマが設定されました。 活動内容の一部ですが、児童や保護者、先生、また学年や親子に関係なく交流しながら皆で持ち寄った地元産の野菜、祖父母や地域の方々から寄付して頂いた野菜を切って焼く、そして食す。また地域の方からのご協力のもと、豚の丸焼きやその後の解体体験、豚に関するお話をお聞きすることから『食』のもつ意味を考えるきっかけとしてもらいたいとの想いが込められた活動でした。この活動を行い、参加された保護者の皆様、そして子ども達は食べることの大切さ、生命を頂く有難さを学ばれました。 この長小学校ＰＴＡの活動につきましては、長野県ＰＴＡ連合会の新年度役員研修会で発表したり、機関誌「よりよいＰＴＡ」に掲載したりして、県内の保護者の皆様へお伝えすることになっております。 また長野県ＰＴＡ連合会では、令和２年１０月に１６郡市ＰＴＡ保護者代表の皆様にお集まりいただき、「陽だまり懇談会」を開催致しました。活動内容ですが、コロナ禍により学校休業を経験した上での「家庭教育の重要性」について考え合いました。学校休業中の家庭の様子では「親子で楽しく料理をした」「子どもに料理をお願いした」「給食の有難さを実感した」「食事をしながら、家族で一日の出来事を話した」などの体験談がありました。 この研修会では、それぞれの家庭教育として「できることからやってみよう」という提案も行いました。その一部として、

団　体　名	取　組　の　概　要
	①生活習慣づくり「早寝早起き朝ごはん」 ②家族揃って夕食の中でコミュニケーション「今日はどうだった？」 をプレゼンテーション方式でお伝えしました。 これらの研修内容は長野県ＰＴＡ連合会のホームページに掲載してまいります。 食生活は当然必要不可欠なものですが、親子で料理をし、食するだけでなく、家庭内での親子のコミュニケーションとして大きな役割も担っていると思いますので、これからも多くの保護者の皆様へお伝えする方向です。 **〈コロナ禍における新たな取組、又は強化した取組〉** コロナ禍により長野県ＰＴＡ連合会はじめ、各郡市、単位ＰＴＡでは予定していた活動の中止、変更などがありました。しかしその中で「コロナ禍だから出来ること」を多くの役員の皆様が知恵を持ち寄り、活動を行っております。 ある郡市ＰＴＡでは、ＰＴＡ研修会として親子で出来る運動、体操を動画配信での実施やＰＴＡ新聞に掲載などを行っております。 今後もＰＴＡの研修会や講演会などはオンラインや実際の参加者とオンライン参加でのハイブリッド型など学ぶ機会の提供に工夫が必要だと考えております。 郡市ＰＴＡ、県内の小中学校ＰＴＡでは、まだまだ沢山の「健康」「食生活」に関する活動を行っております。長野県ＰＴＡ連合会としても、活動にご尽力される皆様へのお手伝い、そして、これらの活動を県内の保護者の皆様と共に情報共有を図って参りたいと思います。
長野県学校給食会	【令和２年度の取組】 ○　「学校給食に長野県産物を活用した献立コンクール」の開催 応募総数 116 件の中から 10 件を優秀な献立として選出した。(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため調理・実技審査は行わず書類審査のみとした。) 日時：10 月２日（金）　会場：長野県学校給食会　会議室 ○　上記のコンクールの入賞献立を中心に掲載した「長野県産物を活用した学校給食献立レシピ集」の作成。(3 月上旬に市町村教育委員会、学校給食共同調理場等へ配布予定。) ○　食育指導教材（各種パネル・献立レプリカ等）の貸し出し。 【令和３年度の取組】 ○　「学校給食に長野県産物を活用した献立コンクール」の開催 ○　上記のコンクールの入賞献立を中心に掲載した「長野県産物を活用した学校給食献立レシピ集」の作成。 ○　県内の栄養教諭・学校栄養職員・調理員・学校給食関係者を対象とした「学校給食に長野県産物を活用した調理講習会」の開催 ○　長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会への支援 （県下 17 地区で実施された研修への支援） ○　栄養教諭・学校栄養職員の資質向上のため栄養教諭・学校栄養職員ＯＢが設立した「おいしい給食研究会」への支援・参加（和食を中心とした調理の基本・教材化の講習等） ○　食育指導教材（各種パネル・献立レプリカ等）の貸し出し。

団　体　名	取　組　の　概　要
長野県生活協同組合連合会	【令和２年度の取組】 ○　信州まるごと健康チャレンジ２０２０（10月～12月）及びプレ企画（9月） 　信州ＡＣＥプロジェクト協賛企画として、協同組合連絡会において取り組み、JA 各連、生協連、森林組合、漁協、労金、全労済、ワーカーズ、他、行政分を含めてチラシやニュース等で約 66 万の媒体を配布・掲載しました。また、プレ企画では、食育に関わりのある「オーラルフレイル予防」のハイブリット学習会を実施しました。 ○　他の企画（食育ランチ・産地や工場の視察、商品学習会、他）は、covid-19 感染対策のため、中止・延期としました。 【令和３年度の取組】 ○　信州まるごと健康チャレンジ２０２１は、改めて「食事」「栄養」にフォーカスした取り組みとすべく検討をすすめます。 ○　コロナ禍の推移は見通せませんが、視察・研修・学習等の企画は基本的にオンライン実施に変更し開催することとします。
長野県消費者の会連絡会	【令和２年度の取組】 　コロナ禍の中、活動範囲に制限があるなか、計画通りの事はできませんでした。 　行った事は、依頼のあった保育園で食事のマナー、地産地消、身近な野菜の話です。 【令和３年度の取組】 　食への関心、マナー、野菜の話など依頼のあった保育園で活動する。 （小さいうちから食の大切さを知ってもらうため） 　月１回、廃油用油からリサイクルで石けんを作り環境を考える。
長野県農業会議	【令和２年度の取組】 　食の生産現場は、農業者の高齢化の進行（2020 年センサスでは、個人経営体に占める 65 歳以上の割合　長野県７３．６％（全国６９，８％）、平均69，４歳）と担い手の減少により、生産量の減少や農地の減少が大きく減少。 　農業委員会組織では、農地の担い手が活動しやすい環境づくりとともに、地域の農業の将来に向け、食育の活動は大変重要な課題と位置づけている。 　このため、消費者の食への適切な理解と、子供たちに農業への関心をもってもらう活動が重要として、体験活動等をサポートしている。 【農業委員会の活動例】 ・小学校５年生の子どもたちに農業を実体験いただき、食や農業の理解を深めていただこうと、農業委員４名が５月から１０月の間、田植えから収穫までの栽培指導を実施。（年度当初に計画していた収穫後の食事交流会については中止となった。） ・給食に提供されている野菜がどのように栽培されているかを知ってもらい地産地消の魅力を学んでいただこうと、小学校３年生の子どもたちに、圃場でミニトマトの栽培方法見を見てもらうとともに、収穫のしかたを農業委員が指導。収穫したミニトマトは翌日の給食で提供された。 ○　農業委員会組織紙「全国農業新聞」の信州版 　信州産（地元食材）を使ったレシピの紹介、伝統野菜を連載して紹介。 【令和３年度の取組】 ○　将来に向け地域の農地を維持していく活動と関連して活動を実施。

団　体　名	取　組　の　概　要
	・遊休農地を活用した子供達や消費者との交流 ・市町村で取り組まれている農業小学校への参加、子供達の収穫体験、学校給食との連携活動などへ参画 ・食の生産現場となる農村地域の維持・活性化に向けた取組みの更なる促進（農業の担い手の育成・確保と農地の維持）。
長野県農業協同組合中央会	【令和２年度の取組（元年度の県内各ＪＡでの取り組み）】 ①小学校等への「バケツ稲セット」の配布　（8ＪＡ） ②農業体験学習会（あぐりスクールを含む）の実施　（15ＪＡ） ③農業理解のための自ＪＡ作成教材の提供　（4ＪＡ） ④親子料理教室の開催　（9ＪＡ） ⑤出前授業の実施　（10ＪＡ） ⑥食農教育に関するセミナー・シンポジウム等の開催　（3ＪＡ） 等
長野県 農村文化協会	【令和２年度の取組】 ○　信州の食文化を伝承する人、語り部が年々少なくなり若い世代に継承されていないという危機的な状況が続いている。国も危機感を感じ「和食」と地域文化継承推進事業に取り組んでおり、長野県地域検討委員として協力させていただいている。 ○　「信州ひらがな料理普及隊」の事務局として 50 年前まで使っていた箱膳を活用して和食文化を見える化し伝承活動を展開してきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で箱膳体験はほとんど延期、中止となり語り部の活動は縮小を余儀なくされた。 ○　今年度はそれぞれの隊員が伝承能力、語り部の力量をアップする自己磨き、振り返りの研修会を行い収束時に備えている。 【令和３年度の取組】 ○　新型コロナウイルスの感染対策をとりながら地域食文化伝承する方策として DVD を活用する。一つのテーマを１０分くらいで伝える作品を作り学校の先生や公民館職員が活用できるようにする。 ○　食べることの四つの意味（健康と栄養、人と人をつなぐ作法、命をいただく感謝の気持ち、ふるさとや自然を思う心）をきちんと伝える。学校と地域の連携で信州学を深める新しい伝承方法を確立する。 ○　信州との関係人口（つながり人口）を増やすことに食育を活かす。箱膳体験を動画で紹介し信州の食文化をわかりやすく伝えていく。 ○　ふるさとを大切にする心を育む活動に全力で取り組みたい。
関東農政局	【令和２年度の取組】 コロナ禍における新たな日常やデジタル化に対応した食育推進 ・6月の食育月間に「今、できることからはじめよう！おうち de 食育」をテーマに関東農政局ホームページ内にウェブサイト「おうち de 食育」を開設。 ・7～8月を夏休み子供応援月間として、ホームページ内に「食育キッズ in サマー・キャンパ

団　体　名	取　組　の　概　要
	ス」コーナーを増設し、親子で体験できる職員手作りの調理レシピ集や夏休みの自由研究に役立つ情報を掲載。 ・ホームページ内にウェブサイト「関東食育 DOUGA」を開設、教育ファームや食育実践者等の活動を取材し動画で紹介。 ・コープデリ商品検査センターとの共催で、Zoom を利用した「親子オンライン食育体験」を実施。 ・食育実践者交流会「食育推進フォーラム 2021」（令和 3 年 2 月 16 日）をオンライン開催（Zoom500 名） ・都県・政令市食育担当者会議をTV会議形式、ペーパーレスで開催。（9 月・1 月） 【令和３年度の取組予定】 第４次食育推進基本計画の周知・実践と更なるオンライン食育の推進 ・Zoom などによるオンラインシステムを活用した会議、セミナー、食育体験の推進。 ・YouTube や動画等を活用して、食育実践者の体験活動や食文化継承などをウェブサイトで情報発信。
長野県食生活改善推進協議会	「私達の健康は、私達の手で」をスローガンに「住民参加型ボランティア」として、健康なまちづくりを支えるために学習をしながら自ら実践し、それをお隣さんお向かいさんへ伝えるなど、地域の状況に応じた活動を推進している。 今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、調理実習が思うように行えず、資料を活用した啓発を主に行った。 【令和２年度の取組】 〇おやこ食育教室 食育アドバイザーとして、子どもと親への「おやこ食育教室」の開催（子どもに食べる事の大切さを伝える食育活動の実施） 〇「若者」「働き盛り」「シニア」の世代別講習会 高校生などの若者や働き盛り世代を対象とした生活習慣病予防のための講習会を開催 高齢者に対しては、低栄養予防と閉じこもりによる孤立化を防ぐために、“シニアカフェ”としてコミュニティ単位での集まりを開催 〇男性の料理教室の実施 〇牛乳・乳製品及び凍り豆腐の普及活動 〇8020 推進員として歯の健康と食生活推進のための活動 〇フレイル予防の推進 〇リモートによる学習・会議の開催 講師からオンラインで指導を受ける調理実習の開催 調理実習を実施する場合は少人数で、開催回数を増やして対応した 【令和３年度の取組】 子どもから若い年代へは食の大切さと料理を作る楽しさを伝えていく。 働き盛り世代へは、減塩と野菜摂取を中心に生活習慣病予防の食の実践を啓発。 高齢世代には、フレイル予防を啓発する。

団　体　名	取　組　の　概　要
農村女性ネットワークながの	【令和２年度の取組】 〇本協議会の独自事業である「信州の食と農のセミナー」の開催（県下４地区） 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、可能な範囲で一般消費者及び子供を対象に、地域の農産物や特産物を生産から、活用まで理解してもらうため栽培講習、料理講習・加工講習を通し、地域における食や農に関する理解を深め、農業の応援団になってもらうことを目的に実施している。 〇牛乳・乳製品利用料理講習会の開催（県下４地区６会場） 生産者の立場から、全国農業協同組合連合会長野県本部と連携し、一般消費者等を対象に、牛乳の優れた点を PR するほか、各家庭での具体的な活用方法について料理講習会を通して啓発を行った。 〇 組織の中には、学校給食への食材提供を行っているグループがある。 〇 地域の伝統食や行事についてまとめた冊子の配布等により、保育園や小中学校へ食育教育を実施している。 〇 毎年実施してきた「信州の味コンクール」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかった。 【令和３年度の取組】 〇　引続き、「新長野県農村女性チャレンジプラン」の基本方向「食を始めとする農村文化の魅力の共有と発信」を本会の重点活動事項として取り組んでゆく。
農村生活マイスター協会	【令和２年度の取組】 〇　「新農村女性チャレンジプラン推進モデル事業」（本協議会単独事業）の実施 新長野県農村女性チャレンジプラン推進につながる事業を、各地の支部において実施。プラン推進の柱の１つである「食でつなげる知恵と技」に関する事業として、地域の特徴ある農産物、地域の伝統食・伝統行事講座及び講習会等を通じて地産地消や食育を推進した。 例：佐久地区（改定版「小海の郷土食」を地域内において紹介）、長野地区（小学 5 年生を対象に稲作栽培体験・試食）、北信地区（食農教育のための紙芝居作りと演出の企画・練習）等 〇　各地区における食育活動 学校と連携した農作業と調理の体験、学校給食への食材提供、地域農産物の活用法研究等の講習会、地域における食育イベントでの体験発表を通じた魅力発信及び、地産地消の推進につながる活動を各地区において実施した。 例：松本地区（松本地域食育 Web フォーラムへの参加及び生産者の視点による体験発表） 〇　毎年実施してきた「信州の味コンクール」は、今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。 【令和３年度の取組】 〇　引続き、生産者の視点から地域の食文化の伝承、新たな食の創造、食と農への理解を推進する活動を地域関係者と連携し取組んでゆく。

団　体　名	取　組　の　概　要
長野県町村会 （諏訪市）	【令和２年度の取組】※諏訪市の事例 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、事業の規模縮小や内容変更など、感染予防対策をした上で実施した。 ○　諏訪市食育推進計画により計画的に食育を推進し、また取組評価を実施した。 ○　健康祭りの代替イベントとして、健康課題である高血圧や脳梗塞等の予防のため、市民に減塩を動機づける取組として「減塩フェスタ」を開催した。 ○　保育園の保護者向けに「めざそう！やさい野菜大すきっズ」をテーマに料理教室を開催した。例年はデモンストレーション⇒試食をするが、今年は事前に撮影した動画を流して調理の説明をした。 ○　親子料理教室（親子で取り組む調理実習）の中止に伴い、家庭でも親子で料理体験をしてもらえるよう、小中学生の家庭へパンフレットを配布した。 ○　市公報で「ヘルシーレシピ」記事を掲載した。 ○　乳幼児健診、離乳食教室、各種相談事業、特定保健指導の保健指導を通して、個人に沿った健康のための職に関する知識の普及を行った。 【令和３年度の取組】 ○　食育推進計画を健康づくり計画と一体化し、計画に沿った食育を推進する。 ○　新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、関係部署とも連携をとりながら実施していく。
長野県町村会 （軽井沢町）	【令和２年度の取組】 ○　町広報誌、町ホームページで食知識について記事を掲載した（内容は脂質摂取について、野菜摂取と減塩について、フレイルについて、妊娠中の栄養について）。 ○　通いの場に管理栄養士が出向きフレイルや低栄養予防の講話を実施 ○　老人福祉センターや木もれ陽の里内にフレイルについてのチラシ及び掲示物の設置により食知識の普及を行っている。 ○　乳幼児健診、マタニティスクール、各種相談事業、特定健診、糖尿病性腎症重症化予防事業での保健指導を通して、各個人に沿った生涯を通じた食知識の普及を行っている。 ○　母子手帳発行時に、「妊娠中の栄養」というチラシを配布し正しい食知識の普及を行っている。 ○　保育園では、野菜を育て給食で提供している。正しい食具の使い方についても教えている。 ○　小学校では、給食だよりにおいて食に関する情報を提供している。 ○　中学校では、給食時間に放送等による指導及び給食だよりや掲示物において食に関する情報の提供をしている。 【令和３年度の取組】 ○　食育推進計画と一体となり策定している軽井沢町健康増進計画「第２次健康軽井沢 21」の中間評価を受け、良い食習慣で適正体重を維持できるよう若年者から高齢者まで、広く食育の推進を図っていく。また、高齢期のフレイルについても引き続き周知及び予防のために食知識の普及を実施していく。

団　体　名	取　組　の　概　要
長野県市町村教育委員会連絡協議会	【令和２年度の取組】 （飯綱町の例） **Ⅰ　飯綱町学校給食共同調理場の取り組みについて** １飯綱町学校給食理念　～学校給食共同調理場運営目標～ （１）安心・安全でおいしい給食作り ①栄養バランスのとれた、安全な食材による給食 ②衛生管理の徹底と環境にやさしい施設運営 ③食物アレルギーに対応できる給食（担当の栄養士を配置） （２）食育の推進 ①家庭と地域との共同による食育の推進 ②食に関する知識と食を選択する力の育成 ③食の大切さ、喜び、楽しさ、感謝の心、食文化などへの理解を深める食育の推進 ④作り手と子どもたちのお互いの顔がみえる心を育む給食 （３）地産地消の推進 ①安全な地域食材の供給システムの確立 ②飯綱町の食材を使った生産者の顔が見える給食 ③飯綱産米による米飯給食（１００％） （４）手作りの給食 ○手作りを基本とした作り手の顔が見える、食べることの喜びを味わえる給食 （５）季節感がある献立と郷土食 ①旬の食材を積極的に取り入れた給食 ②地域の伝統や季節の行事にちなんだ給食 （６）学校運営に対応した給食 ○学校行事に柔軟に対応できる給食運営 ２　食に関する指導の目標 （１）６つの目標 ①食事の重要性　…食事の重要性、食事の喜び楽しさ ②心身の健康　…望ましい栄養、食事のとり方、自ら管理していく能力 ③食品を選択する能力　…食品や料理の名前、品質・安全性・栄養素、自ら判断できる能力 ④感謝の心　…生産者・食物への思い、動植物の命、あいさつ ⑤社会性　…準備、食事のマナー、食を通した人間関係形成能力 ⑥食文化　…地域の産物、歴史、食文化、国際理解 ・季節を感じる旬の食べ物　・飯綱町産の食材　・郷土食　・行事食　・希望献立 （２）基本は献立を大切に ①楽しいね、うれしいねと言われるような……でも、<u>和食が基本の給食作り</u>。 ②栄養価合わせだけのような無理な組み合わせはしない。 ③「楽しい」ということが冷凍のデザートということにならない献立作り。 （３）献立作成や共同調理場で配慮していること

団　体　名	取　組　の　概　要

①季節を感じる旬の食材を生かし、手作りの味と心を大切に伝える。

②歯ごたえのある献立を多く取り入れ、「よく噛む習慣」の啓発を図る。

③子どもたちに好まれない食品でも、健康上大切な食品（青みの魚、大豆、色の濃い野菜、海藻、ごま　等）を積極的に使う。

④主食＋牛乳＋主菜＋副菜＋汁物＋（デザートまたは果物）の形を基本とし、バランスのとれた献立作りに努める。

⑤魅力ある給食として、お楽しみ給食（行事食・郷土食・希望献立　等）を取り入れながら、嗜好に走らない献立作りに努める。→意図ある献立

⑥安心して食べられる安全な食事作り。

⑦糖分・塩分のとり過ぎに注意し、薄味に心がける。

⑧毎日毎日の反省を生かしながら、期待される食事作りへの努力・工夫をする。

Ⅱ　飯綱町コミュニティスクールの食育の取り組みについて

1　飯綱町コミュニティスクールの仕組み

「おらほの学校応援団」（地域住民）に支えられた食育

（1）郷土の食文化や行事食を学び故郷に対する誇りと愛情を育む食育

①地域の農業と結びつき、生活の知恵、食べる喜びとして受け継がれてきた郷土の食文化を体験的に学ぶことで、故郷への理解と愛着を深める。

②作物を育て、調理し、いただく体験を通して、命の尊さ、食べ物を大切にする心、感謝する心を育む。

③保育園から高校まで体系的に農業や食文化を学び、食育を通して人格形成を図る。

（2）６年間を見据えた農業体験と食育（小学校の例）

【牟礼小学校】

学年	農業体現・栽培	ふるさと学習・食育との関連
１年	枝豆 ポップコーン	・６年生との交流
２年	大豆 じゃがいも さつまいも イナゴ捕り	・ずんだ餅、豆腐、きな粉づくり（手作り加工食品） ・全校やきいも集会 ・イナゴの佃煮（郷土食） ・やしょうまづくり（郷土・行事食）

団　体　名	取　組　の　概　要

３年	りんご栽培 さつまいも 小豆	・地域の特産物の学習　・アップルパイづくり ・全校やきいも集会 ・あんこづくり（地域の食文化）
４年	さつまいも 大豆	・全校やきいも集会 ・ずんだ餅
５年	米づくり（うるち・もち） 小布施丸なす 八町大根 ぼたん胡椒	・飯盒炊飯収穫祭　・赤塩焼きご飯茶碗製作 ・「やたら」づくり（郷土食）
６年	さつまいも なす きゅうり ポップコーン	・全校やきいも集会 ・１年生との交流
特支	さつまいも 大根 じゃがいも ポップコーン	・全校やきいも集会 ・販売　・ふろふき大根 ・１年生と６年生の交流会

【三水小学校】

学年	農業体現・栽培	ふるさと学習・食育との関連
１年	さつまいも きゅうり ポップコーン パンジー	・全校やきいも集会 ・姉妹学級の６年生の卒業式を飾るため
２年	大豆	・きな粉づくり（５年生の餅つきできな粉餅に） ・豆腐、味噌づくり（手作り加工品）
３年	りんご栽培 さつまいも なす かぼちゃ きゅうり トマト	・地域の特産物の学習 ・全校やきいも集会 ・おやきづくり（郷土食）
４年	さつまいも 大根 きゅうり ミニトマト	・全校やきいも集会 ・凍み大根づくり（郷土食・５年時の田植えの「おこびれ」にする）
５年	米づくり（うるち・もち） さつまいも 小玉すいか きゅうり	・収穫祭（餅つき、おはぎ・きな粉餅づくり） ・全校やきいも集会

<table>
<tr><th>団　体　名</th><th>取　組　の　概　要</th></tr>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>ミニトマト</td><td></td></tr>
<tr><td>６年</td><td>さつまいも</td><td>全校やきいも集会</td></tr>
<tr><td>特支</td><td>さつまいも
じゃがいも
大根
きゅうり
ミニトマト</td><td>・全校やきいも集会
・栽培体験
・販売体験</td></tr>
</table>
《今後の課題》
○　学校給食と学校教育が結びついた食育を目指して
・家庭科の学習だけに留まらず、「体の健康と保健体育」「食物の生産・流通と社会科」「気球の気候や植物の成長と理科」など、学校の教職員全体が食育に関わっていく体制づくり。
</td></tr>
</table>